

花粉の少ないスギ品種（少花粉・特定母樹）の 採種園造成と種子生産

1 はじめに

岩手県では、林野庁の花粉の少ないスギ苗木の生産目標に対応し、平成27年から花粉の少ないスギ品種の採種園造成を進めてきた。令和8年5月、計画した全ての採種園が完成した。また、初期に造成した採種園では種子生産が始まっている。今回、これまでの採種園造成の取組と種子生産の実績を紹介する。

2 花粉の少ないスギ品種の採種園造成

花粉の少ないスギ品種の採種園の造成面積は、岩手県民有林の造林目標からスギの年間必要種子量を約59kgと試算し、3年周期で採種する運用を踏まえて約6haに策定した。

造成初期は、採種園への植栽苗木の確保量が限られていたため、小面積から造成を始め、段階的に面積を拡大した。植栽には少花粉スギ品種^(※1)14系統又は特定母樹^(※2)28系統を用い、平成27年から令和8年迄で少花粉スギ品種の採種園4.7ha、特定母樹の採種園1.0haを造成した（図1）。

3 花粉の少ないスギ品種の種子生産

造成した採種園では、母樹の生育状況に応じ、早ければ植栽3年目の夏に着花促進剤を散布し、植栽4年目から種子生産が可能となる。

初期に造成した少花粉スギ品種の採種園では、平成30年から種子生産を始め、令和4年頃からは10kgを超えるまとまった生産量が得られるようになった（図2）。

4 おわりに

今後、少花粉スギ品種では、採種できる採種園面積が増えてくることから、種子生産量の増加や安定化が期待できる。また、令和8年に初めて特定母樹の採種園を造成したことから、早ければ4年後に特定母樹の種子供給が可能となる。

(※1) 少花粉スギ品種

平年では雄花が全くつかないか、又は極めて僅かしかつかず、花粉飛散量の多い年でもほとんど花粉を生産しない特性（花粉生産量：一般的なスギの約1%以下）及び林業用種苗として適した特性を有するもの

(※2) 特定母樹

成長量：在来の系統と比較して1.5倍以上の材積
材の剛性：同様の林分の個体の平均値と比較して優れていること
幹の通直性：曲がりがないか、曲がりがあっても採材に支障がないもの
花粉量：一般的なスギのおおむね半分以下



令和8年に造成した特定母樹の採種園

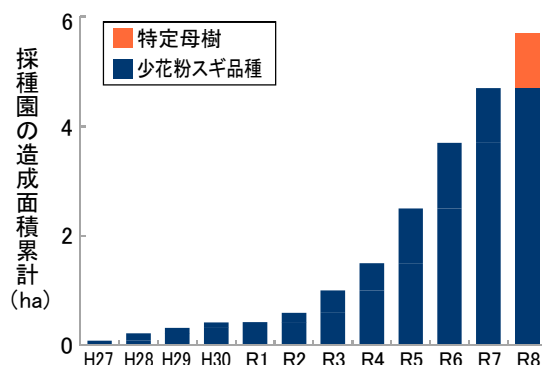


図1 花粉の少ないスギ品種の採種園造成面積累計



(左)少花粉スギ品種の球果採取 (右)球果乾燥

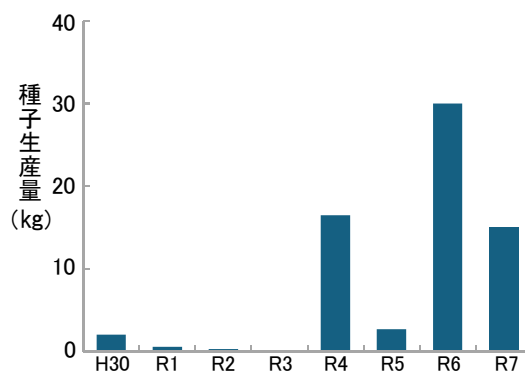


図2 少花粉スギ品種の種子生産量

(担当者 研究部 上席専門研究員 丹羽花恵)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

TEL 019-697-1536

岩手県林業技術センター

FAX 019-697-1410

ホームページアドレス：<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>